

令和7年度第4回鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会 会議録

- 日 時: 令和8年1月30日(金曜日)午前10時~12時05分
- 会 場: 鶴岡市役所6階大会議室
- 会場出席者: 鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会委員13名
- 市側出席者: 市民部長ほか鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会幹事、事務局21名
- 公開・非公開の別: 公開
- 傍聴者の人数: 0人

(10時 開会)

1 開 会 (全体進行: コミュニティ推進課長)

2 挨拶 (挨拶: 委員長)

3 協議 (座長: 委員長)

(1) 第3期鶴岡市地域コミュニティ推進計画(案)について

(事務局)資料 No.1、No.2を説明

(2) 第3期鶴岡市地域コミュニティ推進計画の周知・活用方法について

(事務局)資料 No.3、No.4を説明

(A 委員)

町内会長等を対象に計画を研修会で周知するとのことだが、研修会の規模や開催方法が決まっているのか知りたい。また、自治会長向け研修会の出席率や内容が各地域に持ち帰られているか伺いたい。

各コミセンでの小規模な研修会や、市職員が地域へ直接説明する機会があるとより計画を身近に感じると思うので、想定している研修会の規模、開催方法についても伺いたい。

(事務局)

例年、つるおかみらいフォーラムとして、住民自治組織関係者を対象とした研修会を出羽庄内国際村で開催している。オンラインも含め、出席者は50~60人程度。デジタル分野など時代に即した内容の研修会を実施している。研修会の前段で本計画が総合計画の下位計画に位置付けられていることや、ふり返しシートを用いて優良事例を紹介している。参加者が地域活動を行う際に参考にできる内容となるように工夫している。

(B 委員)

全市的な周知に加えて、例えばコミセン単位、町内会長向け研修会、総会に概要版を使い、市職員が直接出向き説明するとより効果が上がるかと思う。

また、市街地の鶴岡市コミュニティ組織協議会、郊外地の鶴岡市自治振興会連絡協議会の会合の機会を捉え、周知していただければと思う。

(事務局)

つるおかみらいフォーラムの出席率は、単位自治組織が全部で463あるので2割弱程度となる。

コミセンや地域に出向いて説明ともあったが、地域ごとに課題や状況が異なるため、一律ではなく地域に合った取組が必要であり、行政と地域が一緒に考えながら進めていくことが大事だと思う。鶴岡地域に限らず、地区からの依頼を踏まえながら、一緒に考えていきたい。

(C 委員)

櫛引地域、温海地域に広域コミュニティの組織がない点について伺いたい。櫛引地域については、過去に勤務した経験があり、住民が自主的に集落の統廃合を進めていたと認識している。

ただ残念なことに、広域的なコミュニティ組織がないことから、住民説明会やワークショップを通じて説明を行っているものの、住民理解が十分でないとの記載があり、苦勞している状況が伺える。人口減少や役員の担い手不足が進むことを考えると、将来的には広域的なコミュニティ組織が必要ではないかと思う。

そこで、広域コミュニティ組織が存在しない櫛引地域および温海地域について、今後どのような方向性で進めていく考えなのかを伺いたい。

(事務局)

櫛引地域では集落の統廃合が進み、各自治会が一定の力を持っており、小規模集落が少なく、自分たちで対応できるという意識が強いため、広域コミュニティ組織化が進みにくい状況にある。また、小学校区単位の公民館が設置されてこなかった経緯から、広域的な枠組みが地域になじみにくい背景もある。

一方、近年の災害の激甚化・多発化を受け、令和 3 年頃から避難所単位での防災体制強化の必要性が指摘され、ワークショップの開催や、小学校区単位での防災訓練・研修を実施している。自治会への実態調査では、現時点で広域コミュニティは不要との回答が多かったが、人口減少や担い手不足を踏まえ、将来的な必要性については共通認識がある。

今後は段階的に理解を深めながら、広域での取組事例を示していきたい。

(事務局)

温海地域では、令和 7 年 11 月に開催された自治会長会で、これからのコミュニティのあり方をテーマに広域化も含めた研修会を実施し、27 自治会長が参加した。令和 8 年度以降は、広域化も含めた検討を進めていくこととしている。広域コミュニティ組織の拠点施設がないことが課題となっており、解決策も含め、さらに踏み込んだ検討を行っていく。あわせて、集落座談会や地区自治会単位での話し合いで、どのような進め方が適切か検討することとしている。

また、他地域の事例として、藤島地域東栄地区自治振興会や朝日南部地区自治振興会について、事務局レベルでの情報収集・研修を開始している。

(D 委員)

温海地域において広域コミュニティ組織化を進めるための拠点施設がないということだが、建物自体がないのか、それとも地域の範囲が広いため判断がつかないのか伺いたい。

また、拠点施設のハード面に加え、職員配置も課題であるとのことだが、予算的な裏付けがあるかも伺いたい。

(事務局)

27 の単位自治組織には公民館という拠点施設があるが、広域化する際の拠点施設がない。廃校を活用する案もあるが、費用がかかる。

予算の検討はしていないが、温海地域には 4 つの地区自治会という準コミュニティ組織があり、事務局業務を庁舎の総務企画課で担っている。他地区のようにコミュニティセンター化

されれば、職員の確保も可能になると考えられる。

(E 委員)

概要版の作成にあたり、文字が多いと読むのに時間がかかるため、各地域の取組が一目でわかるような図や柔らかいフォントを使うと、計画の活用方法にある若い世代が企画運営するときに見やすいと思う。

また、子ども向けに簡単な言葉で地域の取組を示したデザインを用意すると、若い世代が考えるときに活用しやすいのではないかと思う。

(事務局)

若い世代が企画運営する際や、子ども向けに活用できるという視点は大事だと思う。若い世代にも計画に目を向けてもらえるよう、分かりやすい概要版の作成について検討していきたい。

(A 委員)

概要版を自治会長に配布しても、内容が膨大なため、各自で読み込むのは難しいと思う。そのため、市役所職員が各地域に出向き、地域ごとの課題や特性を噛み砕いて説明することが望ましいと思う。計画を有効活用するために、自分の地域の課題や鶴岡市全体の地域性を理解してもらうのがいいと思う。

また、子ども向けや若い世代向けのアプローチとして、地域の取組をコミセン職員や関係者に依頼してマニュアル化したり、コミュニティスクールで情報共有するといった方法も新しいアプローチになるのかと思う。

なお、この計画は令和 8 年度から 12 年度までなので、自治会長の改選期に合わせて配布するのか、毎年配布するのか伺いたい。

(事務局)

2 年ごとに自治会長が交代するという話だが、できる限り引き継いで活用いただきたい。市ホームページにも掲載するので、引き継ぎの際に印刷するなど柔軟な対応をお願いしたい。

(D 委員)

町内会長を 2 年間務めたが、引き継ぎ文書を見るのが大変だった。町内会長の手引はあるが、読んだのは 8 月頃だった。町内会長の仕事は自主的な活動であるため、資料を配布するだけでは不十分だと思う。何か知りたいことがあった時に問い合わせができる窓口があればいいと思う。

(F 委員)

資料 3 の計画の周知方法について、5 年間という長期計画のため、時間をかけて市民に伝えていけばいいと思う。

泉地区の学校運営協議会では、中学生による SDGs に関する研究を生徒が発表する機会があった。概要版が子どもたちに地域の取組を理解し、自分の地域を考えるきっかけになる資料になればいいと思う。

子どもたちは次世代の担い手となるため、学校関係者にも資料を配布して活用してもらうことが望ましいのではないかと思う。

(幹事)

今年度から市内の小中学校すべてにおいてコミュニティスクール、学校運営協議会を立ち

上げた。中学校区ごとに設置を任せており、羽黒地域では2つの小学校と1つの中学校で学校運営協議会を設置し、中学校の学校運営協議会がブロック全体の学校運営協議会を兼ねている。その場を利用して、コミュニティ推進計画を学校運営協議会の委員へ周知したり、地域に密着した総合学習で周知することもできると思う。

(C 委員)

資料1の73ページにコミュニティ支援員や集落支援員を配置して地域を支援するという文言が載っている。また、災害時に避難所を開設するのは地区担当職員だと思うが、それぞれの役割について伺いたい。何らかの資格を持っているのか。

また、旧鶴岡地域には市街地に6つのコミセンがある。受益者負担ということで使用料の見直しとあるが、料金体系について伺いたい。

(事務局)

コミュニティ支援員は鶴岡地域に2人、櫛引地域に1人配置されている。地区に配置ということではない。地域に出向いて、地域の課題を聞き、その地域に合った取組と一緒に考えていくのが業務になる。市の支援メニューの紹介や地域からの要望に対してアイデアを出すなど一緒に地域を作り上げていく。身分としては、会計年度任用職員となる。

また、コミセンの使用料は、基本的に地区公民館時の料金を引き継いでいる。料金体系は部屋の広さに応じてできる限り一律になるように検討を進めている。なお、鶴岡地域の市街地6コミセンについては広さに応じて統一している。

(幹事)

集落支援員は朝日地域、温海地域に配置している。業務内容としては、集落のビジョン策定や集落の課題について助言するといった専門的な職員として配置している。

(幹事)

災害時に避難所を開設するのは地区指定職員。

(3)各委員が処属する地域・団体の状況について

(G 委員)

1 つめは、高齢化が進んでおり、単身高齢者が近隣でも多く見かけるようになった。単身高齢者の孤独死は以前からあったが、年末年始に数件あり、新聞がたまっていたことで発見されたようだ。近所で気づく人が少なくなり、コミュニティの力、近隣の力が弱くなってきたと感じる。

2 つめは、国の方でも課題としている身寄りのない高齢者の問題。病院への入院や、施設への入所、亡くなった場合には身元引受人が必要とされる。社協では、市から委託を受けて、成年後見センターを運営しており、意思決定に支援が必要な人は、成年後見人制度を利用している。国の方では今後増えてくることを予想し、対応について検討している。いずれ、社会福祉協議会で担当するのではないかと思う。

(C 委員)

全国各地で地震、太平洋側では山林火災が発生しており、庄内地方でも災害が発生しないか危惧している。

(H 委員)

私の属する町内の半分はアパートの世帯なので、災害時の避難対策を考えていかなければ

ならないと思う。

(事務局)

最近 5 年間は、アパート契約時にハザードマップの提示や、災害時の避難場所について不動産屋で説明することになっている。避難所については、町内会加入に関係なく、誰でも観光客でも利用できるようになっている。不動産屋で契約時に説明するが、意識しないと忘れてしまう。ぜひ町内会の中で周知いただければありがたい。

(A 委員)

上郷地区で 1 月 18 日に 50 回目の上郷地区住民のつどいを開催した。地域について考える機会を持つために開催している。半日ずつのイベントで前半、後半と分け、前半では子どもたちから地域で調べたことや、考えていること、思っていること、歴史などを発表している。後半は上郷で頑張っている人たちを紹介しており、駅伝チームやねんりんピックで全国大会に行った方、ロボットのプログラミングで全国大会に行った子どもたちの話を紹介している。

昨年は、住民のつどいで一般社団法人とちぎ市民協働研究会代表理事の廣瀬隆人先生を招き、地域づくりの担い手発掘と育成をテーマにした講演会を実施した。高校受験や就職の際に子どもたちが社会活動や社会貢献をしてきた経験が評価されているということだった。地域としても、子どもたちが地域活動に参加した際に感謝状を渡すなどして、社会貢献を評価すると良いと言われた。子どもたちに地域活動で得られる力や経験が受験や社会に出たときに役立つことを伝え、巻き込んでいくのが良いという話だった。学校や家庭では上下関係が発生するが、地域活動では子どもたちがほぼ対等な立場で活躍できるため、家庭や学校では学べない貴重な体験ができると強調されていた。

実例として「GO! GO! かみごうプロジェクト」では、中学生が中心となり e スポーツ大会を企画・運営し、普段できない経験を提供している。この魅力をアピールし、若い世代だけでなく保護者にも地域活動の価値を理解してもらい、地域の担い手のイメージ向上につなげていきたい。

(D 委員)

私の学区では、市の鶴岡地域まちづくり未来事業を活用し、天神祭の活性化に取り組んだ。鶴岡天満宮にある神輿の修繕には予算がかかったが、地域の方々との交流やコミュニケーションが深まり、地域が活性化された。その 1 つとしてパンフレットを作成し、子どもたちのイラストや町内会紹介を掲載することで、地域の文化財や魅力を紹介できた。

生涯学習部の活動では、第 2 学区のウォークラリー大会がある。小学生を含むチームで文化財や地域の名所を回る内容で、10 ほど設問を作り、地図ではなくコマ図を見て歩く。準備は長期で、他の学校行事や部活動、スポーツ大会と重なったため、参加者が集まるか不安だった。しかし、事務局長や 2 小の PTA 会長などの若い人、自然環境に関心がある高専のボランティアなど多くの方に協力いただき、計画・運営を通して多くの学びもあった。

また、以前は社会福祉部で行っていたまんてん健康講座を生涯学習部で引き継ぎ、回数を 3 回に絞って開催している。市の保健師も協力してくれており、他地域でも開催したら楽しいかと思う。

他には、郷土を知る学習で、天満宮や本鏡寺の方から 2 学区の歴史について話をしていたり、銀座商店街の鈴木代表に地域の取組について話をさせていただく予定だ。

(I 委員)

今年は役員の改選があり、各部長から役員を上げてもらったが、他の仕事も分担してもらいたいと考えている。特定の人に負担が集中しないようにしたい。

主事も決めたが運転手業務で朝早く夜遅く、日曜日しか休めないため、他の方がカバーする必要がある。一部の人に負担がかかっており、少し仕事を分担していきたいと思う。

中学生や高校生の活用についても検討し、地域の方に打診したところ、部活で忙しくて無理だと言われたが、大人に混じり手伝う形なら協力してもらえそうだった。

また、LINE の運用も見直し、これまでは三役だけで使っていたが、若妻会の人たちからの要望もあり、地域の方とも情報を共有することにした。

温海地域では広域のコミュニティに該当するものがあり、自分は第 2 地区に属している。第 2 地区にある文化財の半分を巡るイベントで、隣の集落の知らなかった文化財を知ることができた。令和 8 年度には、残りの半分を巡る予定だ。

(J 委員)

今の時期、一番大変なのは雪への対応であり、「お互い様除雪ボランティア」に取り組んでいる。自治振興会で予算を組んでいるが、予算が底をつくともボランティアへの支払いができないので、これ以上の降雪があると大変になる。

また、集落の維持について課題があり、朝日中央も南部も東部もそうだが、世帯数の減少に伴い負担金も減り、組織を維持することが難しくなっている。自治会長は毎年交代制なので、同じ人が 2 度担うことになるなど役員負担もある。

自治振興会の取組としては、竹林整備を含む竹灯籠を月山朝日雪祭りに合わせて作っている。朝日中央コミセン周辺に 150 本ほど設置済みで、目標の 300 本を目指して取り組んでいる。地域全体で寒い冬を乗り切り、住民同士のつながりを持つイベントとしている。

昨年は朝日中学校の地域語り合いのワークショップで中学生が地域を PR する目的で、朝日の花をモチーフにしたアクセサリを考えてくれた。チーム WaGeSho が何か取り組めないか、その子どもたちが出してくれたアイデアを実現できないか相談しようと思っている。子どもたちも自分のアイデアが生かされると意識も変わってくると思う。

高校生のボランティアサークルかだんこの会とチーム WaGeSho が連携して、河川整備の看板作成なども行った。

今年も中学生とチーム WaGeSho が一緒に取り組み、地域のつながりを広げていきたい。

(E 委員)

文化祭などの事業を開催しているが、参加者が減少しており、最後まで観覧してもらえない。観覧する住民の参加率は低いので、観覧してもらえる取組を継続していきたい。

自治公民館連絡協議会では、広域コミュニティを検討するために様々な事例を学んでいるが、広域コミュニティ化については検討中だ。将来的には広域化になることを視野にいれつつ、活動を続けていくつもりだ。

また、櫛引あかりをともそうプロジェクト、こしゃってマルシェ、KADATTE いいでばー、青年ボランティアサークルくしびギン！の 4 団体が協力して、人材育成も兼ねた地域活動を進めようという動きもある。

最後に櫛引地域には 21 地区の自治公民館があるが、その連絡協議会の事務局を櫛引生涯学習センターが担っている。

(F 委員)

泉地区地域活動センターで、今週の日曜日に屋外の親子イベントとして雪遊び塾を開催する。今年に関しては、一昨年、昨年と違い雪があり、3 年、4 年ぶりに屋外の開催ができそう。一昨年、昨年も宝探しができるような積雪ではなかった。この会議の中で、地域の課題として人口減少、人材の確保、参加者の確保、後継者の育成等々でてきたが、それに加えて近年は気候変動の問題もある。

羽黒地区全体では 7 月に親子行事として、川で遊ぼうというイベントを開催した。昨年度は大雨による洪水もあり中止になった。大雨の被害のほか猛暑もあり、熱中症アラートが出ると開催が危ぶまれる。事業の開催が気候変動に左右されるようになってきた。

2 つめとして羽黒地域は農村地帯なので、集落単位の大きな行事を設定するのは大変。4 月から 11 月までの間の農家のスケジュールでは、3 月の種まきから、秋の柿の収穫、最終は 11 月の 2 週目ぐらいまで仕事がある。羽黒地区の全体行事、市の行事など開催の目途がつけにくい。

羽黒地域では、10 月に青少年育成推進委員会で、中学生、高校生、それから地域の大人たち集まり、羽黒の未来や将来を考える羽黒大家族会議を開催している。昨年 10 月の会議では、より具体的な内容で羽黒地域の美味しい果物を使って商品を作ろうということになった。タルトを作り発表会を行い、将来的には製品化するという話も出ているようだ。

また、泉地区の生涯学習部の部長もしており、鶴岡市の生涯学習推進員も 15、6 年している。今年改選期で、次の方に渡す準備もしている。個人的には一本釣りを考えているが、公募をしてみてもどうかと思っている。

最後に泉地区でも LINE を活用している。LINE だと意外と断りやすいし、集落の公民館掃除のお知らせもくる。コミュニケーションを図れる道具として活用していきたい。

(K 委員)

地区の事業として、敬老会や七つ祝いなどの祝事のほか、体育祭、文化イベントを実施している。体育祭は、いわゆる運動会の形で、全町内会参加型としてこれまで継続してきた。文化イベントは秋に開催しており、菊や花、盆栽など、趣味を通じた展示イベントとなっている。事業を通して、地域住民同士の交流を図ることを目的としている。

一方で、若い世代の参加が少ないことが課題である。若い人たちにどう参加してもらうかを考える中で、若者が関心を持っているものとして、IT やスマートフォンゲームが挙げられる。これらのツールを使って、交流できないか考えている。例えば、高齢者にスマートフォンの使い方を若者が教えたり、ゲームを通じて世代間交流を図ることができないかと思う。

また、高校生や 20 代の若者からバスケットボールの遊びや練習のために体育館を利用したいと問い合わせがくる。こうした若者を地域活動に巻き込めないか考えている。スポーツをしない若者に対しては、ゲームなど別の形で交流できないか検討している。

さらに、冬場は外出が減るので、寒鱈祭りや麻雀大会などの開催も考えている。

遊んで暮らすという発想を大切に、地域の皆さんに施設を自由に、楽しく利用してもらいたい。

(L 委員)

西郷地区の住民会では、例年 2 月末が総会シーズンとなっている。地区内には 12 集落あり、今回の役員改選の結果、各集落の区長はおおむね 68 歳から 70 歳前後の方々となった。女性の登用も期待していたが、残念ながらいなかった。

昨年、「西郷のみらいを考えるネットワーク交流会」を立ち上げ、若い世代に集まってもらい、様々な意見をいただいた。昨年は 3 回ほど開催し、今年は中心となるメンバー 10 人以内に絞り、具体的に実行していく計画である。

スクールバスについては、これまで利用できる子どもとできない子どもがいたため、教育委員会へ要望を続けてきた。その結果、今年 2 月から全員がスクールバスを利用できるようになり、住民からは大変喜ばれている。西郷小学校は児童数が 57 名と少ないが、通学距離はそれなりにあり、スクールバスの利用が決まったことは非常に良かったと感じている。

現在の大きな課題としては、湯野浜地区に隣接する松並町町内会が、今年 4 月から湯野浜地区自治会へ移行する。数年前から子どもたちは湯野浜小学校に通っていたが、松並町町内

会内では意見の対立もあったと聞いている。今年 4 月 1 日をもって、300 世帯余りが湯野浜地区自治会へ移行する予定で、金銭的な問題も含め、対応が大変だと感じている。一方で、西郷地区の老人クラブには松並町町内会の方々も積極的に参加しており、この点については最終的な整理がついていない。隣接する地域同士であることから、今後も仲良くやっていこうという方向で話がまとまりそうだ。

また、西郷地区でも猪、熊、猿などの出没が見られるようになってきた。熊を見かけた場合、西郷の農協や警察へ連絡することになっていたが、警察から事情聴取を受けるなどの負担があり、実際には連絡されないケースが増えてきた。そのため、学校のスクールゾーン対策協議会において、理事会役員や OB も含めた情報共有のための LINE グループを作成できないか協議した。熊の出没時には、保護者が子どもの送迎を行う必要があるため、素早く情報を伝達するため LINE による情報共有を進める方向である。

最後に、今回の会議を通じて感じた点として、西郷地区では「区長」という呼称を使用しているが、他地域では「自治会長」など呼び方が異なり、分かりにくい。将来的には、「自治会長」「町内会長」「住民会会長」などの呼称を整理し、統一した方がよいと思う。

(B 委員)

第六学区にはコミュニティセンターがあるが、高齢者が多く、コミセンに足を運ぶのが難しい方が増えてきている。そのため、高齢者の多い地区にミニコミセンのような集まれる場所ができないかという声が上がリ、鶴岡地域まちづくり未来事業の補助金を活用し、空き家を「はろ〜くらぶ」として整備した。

現在は、火曜日と土曜日の週 2 回、様々なメニューを用意し、地区の方々に利用してもらっている。当初は何をやればよいか悩んだが、利用者から「これを続けたい」という声があり、火曜日のメニューは固定化された。その結果、他の新しいことができないほど活性化した。

火曜日・土曜日以外も新しい企画ができないか考えているが、事務局の負担も考えながら進めていかなければならない。立ち上げ当初は大変だったが、現在は順調に運営できており、交流の輪も広がっている。

土曜日は、400 円程度でビデオを借り、名作映画の上映会を行っており、上映するだけで毎回 20 人ほどが参加している。自宅にいるよりも、上映前に集まって会話をし、お茶を飲んで交流することを楽しみに来ている方が多いかと思う。

また、今年度から誰でも利用できる居場所として第六学区の地域食堂を開設した。食事を提供するだけでなく、前後の時間も含めて交流することを目的に、昨年 8 月から今年 1 月までに 5 回開催した。小学校の夏休みに第 1 回目をカレーライスで実施した。食事だけでなくゲームも行っており、高校生や大学生のボランティアが参加し、小学校低学年の子どもたちや高齢者の相手をしてきている。高齢者の中には、大学生と 1 時間以上ゲームをして「20 歳若返った」と喜んで帰る方もおり、開設して良かったと感じている。

スクラップ&ビルドという言葉があるが、一度始めた事業はやめることが難しく、また新たな要望もあり、運営は簡単ではない。立ち上げる時は仕方ないが、できるだけ事務局に負担をかけず、地域の方々が主体となって運営していけるように進めていきたい。

(4)その他

(C 委員)

他町村には地域おこし協力隊がいるが、鶴岡市における配置人数と具体的な活動内容について伺いたい。

(幹事)

令和 7 年度は、温海地域に学習系業務で1名、ほとりあに 1 名、計 2 名配置している。また、3 月からは朝日地域のスキー場関連の情報発信業務で 2 名を採用予定である。

(E 委員)

資料 4 のふり返しシートにおいて、デジタル化の推進の項目に自治会向け専用アプリの活用が記載されている。参考として、どのようなアプリなのか伺いたい。

(事務局)

鶴岡地域では、三瀬地区で「結ネット」というアプリを活用していると思う。学校現場で利用されているさくら連絡網のように、メール等による情報発信、出席・欠席の回答といった機能を持つ、民間で提供されているアプリを想定している。

(委員長)

ふり返しシートに自治会向け専用アプリの具体的な記載があると記入しやすいと思う。

4 その他

(挨拶:市民部長)

5 閉会(12時05分)

(コミュニティ推進課長)